

# パートナードッグ&キャットプログラム アドバイザリーボード第2回会議 議事概要

## I. 開催概要

日時	2021年3月2日(水) 13:00~17:00
場所	株式会社AHB本社 会議室
参加者	<p>1. アドバイザー 6名</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 高木國雄法律事務所 弁護士 浅野 明子 氏 ※オンライン参加</li><li>・ 犬猫譲渡仲介サイトOMUSUBI 事業責任者 井島 七海 氏</li><li>・ 犬の遺伝病ネットワーク 代表 今本 成樹 氏</li><li>・ 認定NPO法人人と動物の共生センター 代表 奥田 順之 氏</li><li>・ 認定NPO法人KIDOGS 代表 上山 琴美 氏</li><li>・ 横浜国立大学 准教授 安野 舞子 氏</li></ul> <p>2. ファシリテーター</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ パブリック・ハーツ株式会社 代表取締役 水谷 香織 氏</li></ul> <p>3. 主催・事務局</p> <p>(1)株式会社AHB</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 取締役 営業本部長 長谷川 龍太</li><li>・ 取締役 経営管理本部長 森 兵衛</li><li>・ 経営管理本部 パートナードッグ&amp;キャットプログラム管理責任者 源本 正樹</li><li>・ 営業本部 営業企画担当 谷 美也</li></ul> <p>(2)アニコム損害保険株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 執行役員 徳永 繁郎</li></ul>

※ 印の意味について

- アドバイザーの発言(A)
  - (A)への返答としての発言(B)
    - (B)への返答としての発言(C)
      - (C)への返答としての発言(D)

## II. AHBからの情報提供に対する質疑応答

マッチングサイトの内容について	
<p>繁殖引退、ハンディキャップ、病歴などを記載すべきか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ブリーディングを引退した母犬猫・父犬猫たちという表記があるが、これは繁殖を引退した子なのか、繁殖に適さなかった子も含むのか。後者も含むということであるが記載はしないのか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 後者も含むため記載していく。</li> </ul> </li> <li>● 個体を紹介するところに、繁殖引退なのかハンディキャップなのかが記載していない。ここにも記載してはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペットプラスの子犬・子猫のHPと同じシステムを利用しており、項目を減らすことは可能だが増やすことや自由記述欄を設けることができないという制約がある。</li> <li>○ 本来はハンディキャップの記載や病歴の記載も必要だと思うが記入欄がない。問い合わせがあった後に詳細を説明するなどのやりとりをする形でマッチングしたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保護犬猫のマッチングをしていると、詳細な情報を提示していても更に問合せをいただく。特にハンディがある場合は、クレームに繋がることもある。</li> <li>■ お客によっては、「そうであれば申し込まなかったのに」という人がいそう。出だしのところに、「いろいろな背景を抱えている子がいるので詳しくは問合せてください」という記載があると良い。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>「繁殖に適さない」という表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「繁殖に適さない」というのは、どこまで適さないのか。譲渡にも適さない場合がある。先天的異常等、例えば酷い皮膚病が出ている場合も引き取るのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ この表現は修正する予定。「ブリーディングからの引退」というよりは、「ブリーダーさんからの引退」。その中で詳細は相談したい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「卒業」という言葉も良いのではないか</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>「お問合せ」「審査」の流れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しく飼い主さんになる方が様々な背景を持つ「ブリーダーさんからの引退／卒業」した犬猫であるということを理解したうえで問合せしやすいようにできるという。</li> <li>● 申し込みのプロセスがよくわからない。お問合せフォームから申し込むのか？審査の申込みとは別か？ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「お問合せ」の申し込みと「審査」の申込みは別となる。お問い合わせは、「この子が気になるので情報がほしい」という段階。「審査」は「この子を迎えたいので審査に進みたい」という段階。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ つまり、お問い合わせの時点で「この子は繁殖を引退した子で…」等の説明を聞いたうえで、はじめて審査の申込みとなるのか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ そうした流れを想定している。</li> <li>➢ 私どもの想定では、まず問合せが先にあると思うが、現在の案では隣に「審査の申込み」があるためにわかりにくくなってしまっている。修正したい。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>● 飼い主に対する「審査」を行うのか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現状もお渡しするにあたり、その方の飼育環境、ご家族構成、他の犬猫を飼っているかなどを伺っている。</li> <li>○ 審査項目や条件などは記載する。</li> </ul> </li> <li>● 「審査」後、ウェルネスセンターから各店舗に行き「お見合い」をすることになると思うが、そこで破談になるとどうなるのか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お見合いした店舗、もしくは近隣店舗で管理することになる。</li> </ul> </li> <li>● 「お見合い」が成立した場合は、その日、その場で連れて帰ることができるのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのとおりである。</li> </ul> </li> <li>● 「トライアル期間」は設けないのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移動をしてトライアルというのは今のところ考えていない。ただ、やはり飼</li> </ul> </li> </ul>

	<p>育が難しかったということは考えられるため、トライアルを設置するのではなく、難しい場合は引き取るという対応で考えている。一方でそれを前面に押し出すのは、飼い主の責任とは反対の考え方になってしまうため押し出して広報することはしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 引き渡し後の電話確認をしたりするがどうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アフターフォローしている。3日以内に1回目の電話をしている。譲渡した店舗のスタッフがお客様のご希望に応じて、また飼い主さんや犬猫の様子をみながら対応している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 奈良の愛護センターは一年後に電話をしたりしている。見習うと良い。飼い主さんから困った時に電話をかけてもらえるようにするもの良い。</li> <li>■ 一年後にアンケートをとって今後につなげるのも良い。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
「審査」の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「審査」という取り組みをこのパートナー犬&amp;キャットプログラムからスタート・開発していき、ノウハウを蓄積したうえで今後の販売での取り組みにも活かすことで販売もより良くなっていく。</li> </ul>

### Ⅲ. 議題: 情報提供に対する社会の反応から考える社会的コミュニケーションのあり方

本プログラムに対して、社会からどのような反応があるかについて検討を行った。考えられる反応を「反発・嫌悪的な反応」と「共感・応援的な反応」に分け、そうした反応が起こる背景を検討した。それにより、「反発・嫌悪的な反応」が起こる理由を理解すると共に、「共感・応援的な反応」を得られるような姿勢とはどのようなものか、社会とのコミュニケーションのなかで大切にすべき姿勢、配慮すべき事柄について検討した。また特に重要だと思う部分についてシール投票を行った(重要だと思う項目には「★」が記載されている)。

議論の結果を、以下の枠組みで整理する。

<ul style="list-style-type: none"><li>1. 反発・嫌悪<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 生体ビジネス業界・業態への不信</li><li>(2) プログラムの構造に対する嫌悪・反発</li><li>(3) 掲載犬猫の情報公開の程度による疑念<ul style="list-style-type: none"><li>(a) ブリーダー情報</li><li>(b) 掲載する犬猫の情報</li></ul></li><li>(4) 審査、引き渡し、アフターケアでの反発・嫌悪<ul style="list-style-type: none"><li>(a) 審査やマッチングの基準</li><li>(b) 引き渡しのプロセス/トライアル</li><li>(c) アフターケア</li></ul></li><li>(5) 飼い主の期待との相違による反発<ul style="list-style-type: none"><li>(a) 個体の疾患やハンディキャップへのショック</li><li>(b) 期待が叶えられなかった時の憎悪</li></ul></li><li>(6) ブリーダーとの関係に関する反発・嫌悪<ul style="list-style-type: none"><li>(a) 終生飼養の義務</li><li>(b) 数値基準で苦しくなるブリーダーを守る必要があるのか</li></ul></li><li>(7) アドバイザーへの疑念・批判</li><li>(8) 情報公開にあたっての注意事項<ul style="list-style-type: none"><li>(a) 伝えるべき情報</li><li>(b) ネーミングに込める意味</li><li>(c) 公開の方法</li></ul></li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>2. 共感・応援<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 情報公開への賛同</li><li>(2) 長期的に業界を良くしていく取り組み</li><li>(3) 保護活動の負担軽減</li><li>(4) 反対意見を聴く姿勢</li><li>(5) 成功の定義</li><li>(6) 理解を得るための多方面へのアプローチ</li></ul></li><li>3. 今後に向けて<ul style="list-style-type: none"><li>(1) まとめ</li><li>(2) コメント</li></ul></li></ul>
--	---

★印は重要だと思うところ

星の数は投票数(もしくは重要さの度数)を表している

1. 考えられる反発・嫌悪的な反応	
(1) 生体ビジネス業界・業態への不信★★	
業界・業態への不信・嫌悪	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペットショップのプログラムだから信用できない。何をやっていたとしても、生体販売を行っている以上、「悪」と捉える人もいる。</li> <li>● 命をお金で売買することに対する嫌悪感があるだろう。</li> <li>● 感情的にペットショップを受け入れてもらえない。理解してもらえないのは仕方ない面もあるのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ それでも、対話は絶対に諦めてはいけない。対話を行い、背景や理由を説明すれば理解してくれる人がいる。そこから少しずつ変わると考えている。</li> </ul> </li> </ul>
生体販売の継続 繁栄への反発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子犬・子猫を育てて、また次の子犬・子猫と回転が速くなる。ペット業界が余計繁栄するという捉え方がされるかもしれない。</li> </ul>
(2) プログラムの構造に対する嫌悪・反発	
繁殖引退犬猫を生み出す「原因を作っているペット業界」への反発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護活動をされている方は、廃業したブリーダーさん、あるいは、営業をしているブリーダーさんから繁殖犬を引き取って譲渡している。</li> <li>● 「私たちが引き取らなければならない犬猫を生み出す原因を作っているペット業界」が、今さら繁殖引退犬猫の譲渡をしようというのは、今までのことをなかったことにしようとしているようで納得できない、という感覚は抱くかもしれない。</li> </ul>
更に金儲けをするのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護活動者の感覚では、「私たちはボランティアで身銭を切って譲渡しているのに、あなた方企業はお金をとるのですか？」と言われるだろう。</li> <li>● 有償でそれが保護団体の譲渡手数料よりも高いことを見込まれるため、「繁殖引退犬猫すら金儲けの道具にするのか」という声が上がるとも思われる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手数料は、企業として適切なケアを行うために必要な経費</li> <li>○ 新たなモデルの提案であるため評価してもらいたいという思いはある。</li> </ul> </li> </ul>
無償で実施すべきという考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界の健全化を目指すという立場であれば、ある程度奉仕をすることを期待されるだろう。持ち出しが足りないと言われるかもしれない。</li> <li>● ボランティアがいいという風潮があるが、結局完全にボランティアで持ち出しでは取り組み自体が続かなくなってしまうだろう。</li> </ul>
(3) 掲載犬猫の情報公開の程度による疑念	
(a) ブリーダー情報	
ブリーダーの情報公開 ★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どんなブリーダーから、どんな環境から来た子かわからない。明示されないことにより、不適切なブリーダーを助けているのではないかという疑念につながる。</li> <li>● 不透明さからくる、不安、不信、不満が生じる。</li> <li>● どんなブリーダーから、どんな環境から来た子かを示すべきである。</li> </ul>
(b) 掲載する犬猫の情報	
一般的な健康状態に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページ上で個体の情報の掲載量が少ないことで、健康状態での問題や行動面での問題がある犬猫を、そうした情報を知らされずに押しつけられるのではないかという疑念につながる。</li> </ul>
ハンディキャップに関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハンディキャップの犬猫も対象にすると話だが、犬のハンディが何かが分かりづらい。現段階では個体の情報が著しく少ない。</li> <li>● 消費者目線から、飼う側としてハンディがある子は飼った後難しいポイントがある。どうしたらいいか全く分からない。だから申し込めない。申し込んだ後にこんなはずでは無かったとなるのは問題である。</li> </ul>
どこから来た犬猫かという情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 店頭で売れ残った子を繁殖引退犬猫と称し本プログラムに回していないか？という疑念の可能性はある。</li> <li>● 対象が引退犬猫なのか、売れ残りなのか、店頭に出なかった子なのか。対象の定義を明確にする必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 店頭で売れ残った個体は本プログラムでは取り扱わない</li> </ul> </li> </ul>
(4) 審査、引き渡し、アフターケアでの反発・嫌悪	
(a) 審査やマッチングの基準	
審査・マッチング基準が不明確	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 審査基準や審査のプロセスが現在のHP案ではわからない。</li> <li>● そのため、このフォームに入力さえすれば誰でも審査に受かってしまうのではない</li> </ul>

	<p>か、と思われるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一方で、審査落ちた場合には、それはそれで「なぜ？」といわれるだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 審査項目を明確化する必要がある。</li> <li>○ 「ご希望に添えないことがあります」という文言を明記する。</li> </ul> </li> </ul>
(b)引き渡しのプロセス／トライアル	
その場で連れて帰るのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 店舗でお見合いしてそのまま連れて帰ることができるというのは、保護団体ではほぼない。</li> <li>● トライアルもなしでその場で連れて帰るのという部分は、今後プロセスを検討していかなければならない。</li> </ul>
(c)アフターケア	
アフターチェックはないのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アフターチェックがなければ、虐待する人達に渡ってしまうリスクになる。</li> <li>● チェックのために、愛護センターでは1年後に電話するところもある。</li> <li>● 1年後にアンケートをとるというのも良い。</li> </ul>
(5)飼い主の期待との相違による反発・嫌悪	
(a)個体の疾患やハンディキャップへのショック	
病気の子を押しつけられたとSNSで拡散される	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 獣医に、譲渡後の疾患を譲渡前からの疾患だったと言われることがある。「もらう前から病気だったんだ」「病気の子を押しつけられた」となる場合があるだろう。</li> <li>● 既に何らかの疾患がわかっている場合は、しっかりと記述し、その疾患を理解したうえで引き取っていただける方をお願いする必要がある。</li> <li>● 疾患がある場合の記載については、「押し付けている」と捉えられないように、すべての犬猫たちを暖かい家庭につなげ、幸せにしたいという思いが伝わるように、適切に記述する必要がある。</li> </ul>
(b)期待が叶えられなかった	
譲渡前の期待と現実の違いによる反発・嫌悪	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 例えばプードルの場合、ふわふわをイメージするが、毛穴が弱ってきているとふわふわにならないこともある。期待と現実のギャップがあったときに、「健康上問題のある犬を押し付けられた」という感情になるだろう。</li> <li>● 犬猫を迎える時は、総じて高い期待がある。それが裏切られた時には憎悪の感情が大きくなる。</li> <li>● 情報開示の方法は難しく、普通の販売の時にも可能な限り欠点を列挙して販売するところもある。説明義務を果たして、飼養者側に「欠点についてはすべてお伝えしていましたよ」と押しつけるというやり方。しかし、そうした期待値を下げるやり方が、今回のプログラムに適しているのか？</li> <li>● 繁殖犬猫の特徴、プラスとマイナス、子犬と違う繁殖に使われた子特有の疾患が多くなるが、人慣れをしている、一般家庭には慣れていない等、繁殖犬猫の特徴やメリットデメリットを丁寧に説明し理解を得たらどうか。</li> </ul>
(6)ブリーダーとの関係に関する反発・嫌悪★★★★★	
(a)終生飼養の義務	
終生飼養の義務の放棄では？という疑念	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一部の優良ブリーダーから終生飼養に反していると言われるのではないか。</li> <li>● 終生飼養義務の放棄を手助けしているのではないか。</li> <li>● これに対する説明を分かりやすい言葉でスパッとしないといけない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ (事務局補足)環境省のホームページによれば、動物愛護管理法第22条2項および4項に基づく、犬猫等安全健康計画に記載すべき、販売の用に供することが困難となった犬猫等の取扱いについては、具体的な譲渡先や愛護団体等との連携等を記載すべきとの記述があり、本プログラムも犬猫等安全健康計画に記載すべき事項になると考えられる。</li> </ul> </li> </ul>
(b)数値基準で苦しくなるブリーダーを守る必要があるのか	
数値基準を守れないブリーダーの延命への嫌悪	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自らの事業内で数値基準を守れないようなブリーダー(パートナードッグ&amp;キャットプログラムがないと数値基準を守れないブリーダー)を助けることにならないのか？</li> <li>● 数値基準を守れていないブリーダーをサポートすると息が長くなってしまおうという懸念があるだろう。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 痛ましい多頭飼育崩壊を多くの方が目にしている。多頭飼育で困るブリーダーを助けるプログラムなのではないか。</li> <li>● ブリーダーの飼育管理の状況や引き取った繁殖引退犬猫等の状態に応じて、AHBがフィードバックや介入をしていくべき。</li> </ul>
AHBの基準の明示、優良なブリーダー支援である証明の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AHBが独自に用いる基準等、明確に開示できるものは開示しておくが良い。</li> <li>● 数値基準よりも一段厳しい基準を示し、それに則ったブリーダーとだけ連携すべき。</li> <li>● 世話できているブリーダーは、数値基準がなくても十分に適切に世話ができている。そうしたブリーダーが選ばれていくべき。</li> </ul>
<b>(7)アドバイザーへの疑念・批判★</b>	
アドバイザーへの批判・疑念	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アドバイザーが生体販売に組した、と言われるかもしれない。</li> <li>● アドバイザーは買収されているのではないかと、と言われるかもしれない。</li> </ul>
アドバイザーリーボードの機能に対する疑念	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アドバイザーリーボード設置が免罪符的なものであると捉えられる可能性はある。</li> <li>● アドバイザーがAHBさんや業界に忖度しているのではないかと、あるいはアドバイザーが助言しても取り入れられていないのではないかとという疑念に答える必要がある。</li> </ul>
<b>(8)情報公開にあつたての注意事項</b>	
<b>(a)伝えるべき情報</b>	
プログラム実施経費に関する説明の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しい飼い主さんに負担いただくプログラム実施経費の金額設定については、運営が限界にならないように継続した活動をするために必要な経費であることは納得できる。</li> <li>● 企業が適切なケアを行おうとした場合には、コストをかけることは必要であるため、それをわかりやすく説明できるとよい。</li> <li>● お金をいただかなかった場合の継続できないリスクがどの程度あるかを示すと良いかもしれない。</li> <li>● 実施経費としていただいたお金を次のマッチングに繋ぐというイメージだと思う。そのお金でもう一頭ブリーダーさんから引き取って、また次の飼い主さんに繋げていく。その犬猫に対してお金をいただくのではなくて、その次に繋げるためのお金になる。</li> </ul>
優良ブリーダーさんの想いを紹介する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ブリーダーさんの想いがHPで紹介されることがとても大切。</li> <li>● 優良ブリーダーの想いを紹介することは必要ではないか。大切に育てた犬猫であれば、自分の手元に置いておきたい子もいるだろう。一方、<u>一般家庭での生活も</u>させてあげたいという想いも強いと思う。そうした想いを紹介する</li> <li>● イメージは、引退した盲導犬に近いのではないかと。役目を終えて家庭に迎えられるという点で共通する。</li> </ul>
繁殖犬猫の第二の人生をみんなに支援したい、というスタンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>責任を果たすというスタンスは基本的に重要だが、それよりも繁殖犬猫の第二の人生を支援するというスタンスを伝えたい。</u></li> <li>● <u>繁殖犬猫はこういう理由で必要なのだけど、ずっと繁殖犬猫がブリーダーさんのところにいるのではなくて、リタイヤした時に家庭で大切にされるという選択肢を用意できる。そういう仕組みを作っていきたい。</u></li> <li>● <u>ブリーダーだけで責任を果たせ、ではなくて、命に対してみんな(ペット業界全体や飼い主も含めて)で責任を果たすという取り組みであることを伝える。</u></li> </ul>
<b>(b)ネーミングに込める意味</b>	
保護活動のブランドや功績を搾取するようなネーミングへの反発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「保護」は使わないとのことだが「譲渡」「シェルター」「保護犬猫」など、まだあると思う。</li> <li>● ネーミング、言葉の定義をしっかりと行う必要がある。</li> <li>● 保護犬猫の活動に乗っかるような形で展開すると、保護活動をされている方の今までの実績を奪うことになる。大事にしているものを汚してしまう。</li> <li>● <u>保護活動をされている方々の信念や心情を大切に、これまでの功績に敬意を表し業界改善のためにやっていることを、ネーミング、言葉の意味を定めることで伝えるべきである。</u></li> <li>● <u>どんな社会を目指し、どんな考えでやっているかという意思表示をすべき。それが</u></li> </ul>

	<p>反映されるようなネーミングとすべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 繁殖引退犬猫のネーミングは、卒業犬猫なのか引退犬猫なのか難しいが、繁殖を終えた、仕事を終えたという意図を伝えるべき。</li> </ul>
(c)情報公開の方法	
反発・嫌悪の原因を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 反発となる対象のものを洗い出していない。</li> <li>● 反発・嫌悪が生じる場所は同じだとしても、ステークホルダーやその原因が違う。その理由を理解して配慮することが大切。</li> <li>● ブリーダー多頭飼育崩壊という問題があり、とても痛ましいことが各所で起こっているという現状をしっかりと認識し、私たち自身の重要な問題、課題として認識していることを伝える。</li> </ul>
見せ方を工夫した資料を追加する★	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文字が多いと読んでもらえない。良く分からない。</li> <li>● プログラムの象徴となるような、10箇条を作るといいのではないかと。例えば、私たちの指針、「保護犬猫」という表現はしないなど。</li> <li>● フローチャートなど図を使った説明を行ってはどうか。</li> </ul>
問題提起の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題提起から入れるといい。メディアリリースを行うべき。</li> <li>● どんな事をするのかよりもどんな問題を意識しているのか、どんな問題を解決したいのかを伝える必要があるだろう。</li> </ul>
動画での説明ができるといい	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 動画にするとよいだらう。前に出ていき、顔の見える動画でしっかり説明すべき。</li> <li>● 感情的にも動画の方が伝わるだろう。</li> </ul>
シェアのされ方(画像、タイトル、本文等)も考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タイトルは変えた方がいいかもしれない。タイトルとサブタイトルしか読まれないこともある。</li> <li>● 見られるのはタイトルとサムネイルであろう。その短い情報にどのように配慮を組み込んでいくかを考えるべき。</li> <li>● アドバイザーと共に詰めていけると良い。</li> </ul>
リリースの方法とその後を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リリースはどういう順番か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「アドバイザーボードを設置しました」が最初になる。</li> </ul> </li> <li>● HPを直接シェアしてもらえないわけではないだろう。プレスリリースを行った後、プレスリリースがシェアされ、それに合わせてメインのHPが拡散されるように導線を作っていくべきだろう。</li> </ul>

2. 考えられる共感・応援的反応	
(1)情報公開への賛同	
情報公開への理解・賛同 ★★★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 不透明な業界とのイメージがある中、しっかりと情報公開をしていく姿勢は評価する人もいるだろう。</li> <li>● 繁殖引退犬猫やハンディキャップ犬猫という、生体販売の裏側もきちんと公開していくことが大切である。</li> <li>● 自分達の不利益になることも業界健全化のためにトライしていると思ってもらえると良いだろう。</li> </ul>
繁殖犬猫、ハンディ犬猫の存在の周知 ★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 繁殖引退犬猫の存在を世に知らしめることは重要。</li> <li>● 保護犬猫も一昔前は知られていなかった。今は一般消費者の方も知っているようになった。同様に、引退犬猫、ハンディ犬猫などの存在は知られていないが、それを社会に知らしめていく必要があるだろう。</li> </ul>
生体販売の背景の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子犬・子猫についても、どういうブリーダーさんのところで、どういうルートでうちに来たのかを考えることになる。</li> </ul>
(2)長期的に業界を良くしていく取り組み	
長期的に業界の改善に挑む姿勢 ★★★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ペットショップの新たな形、未来のペットショップの形作りに向けて取り組んでいるプログラムだ</u>ということが大事で、生体販売のあり方を変えるために長期的にいろいろ検証していくプログラムであることが伝わると応援してもらいやすい。</li> <li>● 今すぐの成果ではなく<u>10年後のスタンダード</u>を目指す。</li> <li>● 今は判断できないけれど、注目したいと思ってもらえると良い。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>長い目でみて、優良なブリーダーさん達のみ</u>に子犬・子猫を飼育いただけるようにしていくプログラムであり、<u>長期的なタイムスパン</u>で業界の問題を解決する取り組みであるということを明確に示すべきだろう。</li> </ul>
長短期の2つのアプローチで臨んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● このプログラムは、<u>長期的な目線がないと共感しづらい面</u>はあるだろう。実績を積み重ねていくことで信頼を得ていく必要がある。</li> <li>● 短期的な目線では、目の前の引退犬猫のマッチングを行うという部分が成果になるが、それだけでは共感は得られにくいかもしれない。そこで、プログラムと別途、保護団体が行っている保護犬猫の活動の支援も必要ではないか。</li> <li>● 業界が健全化するために、<u>長期・短期の2軸</u>でアプローチしているということが伝わるという。</li> </ul>
犬猫の命への責任の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 繁殖引退犬猫やハンディキャップ犬猫も含め、最後まで責任を持つためのプログラムであり、それが業界の<u>当たり前の姿勢</u>となることが大切である。</li> </ul>
<b>(3)保護活動の負担軽減</b>	
結果として保護活動の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今まで保護団体に押し付けられていた負担を少しでも軽減できることは歓迎すべきこと。</li> <li>● このプログラムは他社にも見習って欲しい。他社も見習えば保護団体さんが保護する犬猫も減っていくだろう。そう理解いただければ、保護団体さんにも少しずつ理解してもらえるかもしれない。</li> </ul>
<b>(4)反対意見を聴く姿勢</b>	
良くしていこうという姿勢で、反対意見を聴く★★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 面と向かって敢えて反対意見をひたすら聴く。対話をする。</li> <li>● 反対する方にそういう場に参加してもらいたい。</li> <li>● 姿勢として、「自分達がまだ未熟である、変化する可能性を持っていて、是か非かこれが答じゃない、これが完成形ではない」と打ち出して、「皆さんからの意見を募集します」で変えていき、こんなに良いモデルになったという形がいい。</li> <li>● いろいろな人を巻き込み一緒に産業のあり方も考えられるといい。</li> <li>● 嫌悪などの情動は個々人の嫌な記憶と結びついているので、個々に聴いていく。その親身に誠実に聴く姿勢が心をひらき、信じてもらいたいかもしれない、一緒にできるかもしれないという気持ちにさせ、新しい記憶を作りやすくなる。</li> </ul>
対面、オンラインで反対意見を聴く	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話を聴く会を開くべきではないか。</li> <li>● 全国から参加してもらえばオンラインがいい。</li> <li>● 人が集まれるようになったら会場を借りてイベントをやれるといい。</li> </ul>
<b>(5)成功の定義</b>	
成功事例を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成功事例(適切なマッチング事例)を増やす。それが一番の応援になる。</li> <li>● 口コミによる応援が一番強い。</li> </ul>
成功とは何か？	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 送り出した引退犬猫がイコール成功事例にはならない。また、送り出した引退犬猫の数が多ければ多いほど良くやっただと言われるものではない。</li> <li>● 違う指標が必要なる。業界改善が進んでいることを示せる数値を見せていく必要がある。</li> <li>● このプログラムに求められるのは引退犬猫の新しい家族を多数見つけるものではなく、<u>多分業態改善とかブリーダーさんの環境が改善</u>できるためのプログラムとして存在することが求められているのではないか。</li> </ul>
成功を定義する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成功事例の成功は、<u>予め自分達が成功を定義すると自己評価し易い</u>。自己評価の後、他者評価を受ければ意見の相違に対して議論しやすい。自己評価なくして他者評価を受けると、それが絶対的な評価に聞こえ自信がなくなる。</li> <li>● 反対の方々の意見を聴くという意見があったが、その方々と一緒に成功とは何かを議論をして一緒に成功を描くことができればそこに向かっていけるかもしれない。</li> </ul>
成功イメージ「一緒に暮らせて良かった」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成功事例として思うのは、<u>新たに家族となってくれた方々</u>がその子が亡くなった時に一緒に暮らせて良かったなど思えること。</li> <li>● ペットと暮らす意味は、自分の時間をその子に費やしそれが良かったなど思えること。</li> </ul>
<b>(6)理解を得るための多方面へのアプローチ</b>	

詳しい方は理解してくれるかもしれない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペット業界のことに詳しい方々にとっては、このプログラムが適正なブリーダーと提携してやっていて、そうしたブリーダーの支援を目指していることが分かるので応援してくれるかなと思った。</li> <li>● 詳しい方にはしっかり読んでいただけるような資料を開示すべき。</li> </ul>
経験者、潜在的な飼い主にアプローチする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペットショップから購入して飼育し満足している飼い主(ペットショップに対する嫌悪感の低い人)は、この取り組みについて応援するのではないか。犬猫を迎える選択肢が増え、背景となる問題も改善しようとしていることが伝わるだろう。</li> <li>● 子犬・子猫を迎えようという飼い主さんにしっかりアプローチしてご利用いただくことで応援や共感につながるかもしれない。</li> </ul>
良いなと思ってシェアするほどじゃない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いい取り組みだと思っても、シェアして応援するという人は多くはないかなと思う。</li> <li>● 動物愛護に関心の高い方だと、ペットショップの取り組みを評価するということには慎重になるだろう。</li> </ul>
無関心層のマジョリティにアプローチする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 犬猫に無関心な人、飼っていない人に共感してもらえると良いだろう。</li> <li>● 無関心な一般のマジョリティへのアプローチができるといい。</li> </ul>

3. 今後に向けて	
(1)まとめ	
ターゲット別にアプローチする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 良く知っている人達にはある意味評価をされるし、良く知っている人達の中にも嫌だという人達はいて、その人達に批判される。</li> <li>● 知らない人達に知ってもらって共感してもらえるといい。</li> <li>● すごく嫌だと思っている人達とは、話し合っていくことが大事だろう。</li> </ul>
10年後のスタンダードをつくるつもりで	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今すぐに成果を期待してはいけない。</li> <li>● 10年後のスタンダードモデルになるといい。</li> <li>● 来年、みんながわっと賛同するようなことではなく、1年後に皆さんの意見を聞き、出てきた改善点を改善していく。10年後に評価されるといい。</li> </ul>
反対される方々とは、対話の場がもてるといい	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 反対の方々の意見を聴く場をつくるといい。それは今後の重要な取り組みの一つになる。</li> <li>● 顔と顔を合わせることでお互いに冷静に議論できる。感情的な反発を生むのではなく共に考えるべき。</li> <li>● 丁寧に説明するためには、面と向かって話し合うことが必要。</li> <li>● そういう人が集まる場があるのであれば、自分達(アドバイザー)が出て行った方が良い。「なんでおまえら協力しているんだ」と言われた時に一人一人の言葉で説明できたら理解が広がっていくと思う。</li> </ul>
成功事例を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成功事例を増やそう。</li> </ul>
(2)コメント	
AHBよりコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今回いただいた助言を反映しHPに載せるには、時間が必要。4月1日予定のリリースに間に合わないので延期する必要があると思っている。</li> <li>● HPのオープンを延期にすることも可能だが改善が前提となる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結果として4月1日リリース予定を、4月15日リリースに変更。</li> </ul> </li> <li>● 我々が思いつかないことを議論いただいた。</li> <li>● 次回までにリリースすることになるだろう。</li> </ul>
アドバイザーコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 準備していても何かしら言われるだろう。完璧にしてからスタートすることで遅くなるのも良くない。6月の前が良い。</li> <li>● 「こういう背景、こういう理念の元でスタートします」と意義だけ伝えるのもOKだと思う。</li> <li>● 長文ばかりのため、その点については現状では弱い。10箇条、動画にするなどは同時にやらなくてはならない。動画はHP上に載せることができる。</li> </ul>